

阪谷芳郎の家庭日記と国勢調査

国立国会図書館憲政資料室が所蔵する日記資料のサイトに、阪谷芳郎の家庭日記に国勢調査に関する記事がありましたので、紹介します。同サイトによれば、阪谷芳郎の家庭日記は、阪谷芳郎が大蔵省に入省した時期（明治17年^{1884年}7月）に始まり、死去（昭和16年^{1941年}11月）の1か月前まで記された日記だそうです。

さかたに よしろう
阪谷 芳郎



(1863～1941)

東京大学文学部政治学理財学科を卒業し、大蔵省に入省。主計局長、大蔵次官を務め、第1次西園寺内閣では蔵相として日露戦争時の財政処理・戦後経営を担当。その後、東京市長、貴族院議員を歴任。洪沢栄一の女婿。

大蔵省在任中には、政府委員として国勢調査に関する法律案について答弁を行う。東京統計協会の会長を40年の長きにわたり勤め、この間、第一回国勢調査の実現に向けた活動を展開。

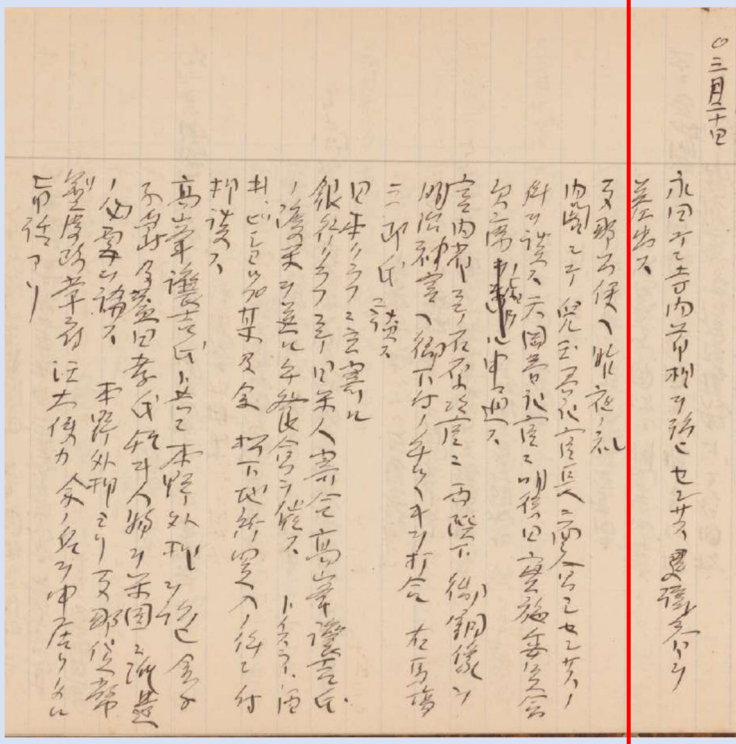
(⇒統計図書館コラム【No. 0009】阪谷芳郎 <https://www.stat.go.jp/library/pdf/column0009.pdf> (356KB))

【参考資料】：国立国会図書館HP「近代日本人の肖像」等、【画像】：前掲の「近代日本人の肖像」

●阪谷芳郎「家庭日記」

No.18（大正5年12月21日～大正6年8月10日）

① 大正6年（1917年）3月20日



一口メモ

大正6年（1917年）3月20日の日記の冒頭に、「永田町二寺内首相ヲ訪ヒセンサス建議書ヲ差出ス」とあり、延期になっていた第1回国勢調査の実施時期の確定を求めるべく首相に直接面会して建議書（参考）を提出。こうした活動も奏功し、大正7年、国勢調査施行令が公布され、第1回国勢調査は大正9年に実施されることに。

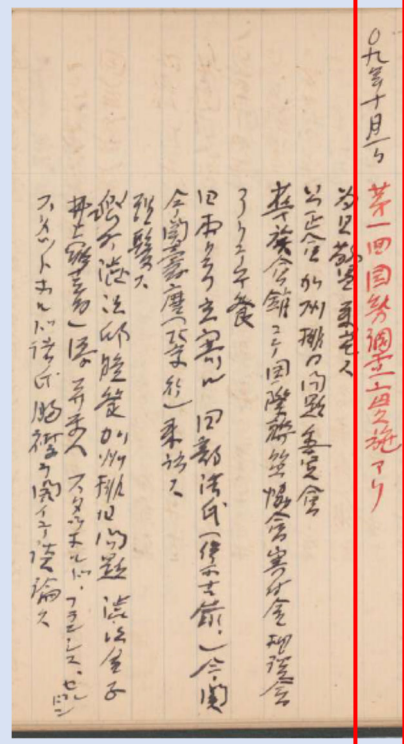
【画像】国立国会図書館デジタルコレクション

①：<https://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/11536472/23>、②：<https://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/11536476/52>

【参考】第1回国勢調査の実施時期の確定を求める建議書の内容と阪谷芳郎が寺内総理に建議書を提出した旨の記事（統計集誌第433号（大正7年3月）に所収。）は、国立国会図書館デジタルコレクション（※国立国会図書館/図書館・個人送信限定）で閲覧可能。<https://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/1573301/32>

No.22（大正9年3月1日～10年2月22日）

② 大正9年（1920年）10月1日



一口メモ

大正9年（1920年）10月1日の日記の冒頭に、「第一回国勢調査国勢調査実施アリ」と朱書きで強調されているのが印象的です。第一回国勢調査の実現に尽力した彼の熱い思いを感じます。